

転んだあとの杖

銀座ココロコ 木村久理子



再生能力を取り戻すこと

実は私が携わっている美容医療の世界でも、かつて備わっていた機能を取り戻す治療を行っている症例が多々あります。美容の若返り治療も、昨今、発分野で研究が進んでいる再生医療も、究極的には「人筋の能力の再獲得」と言えるのかもしれません。

若い頃は、たとえ真つ黒に日焼けしても体には備わった修復・再生能力により、しみやしわは残りませんでした。私達が子供の頃は、日焼けすることが健康の象徴のようにも言われていたことが、年代が経過すれば、そこかしこに蓄積された紫外線の爪痕を発見してしまいうことになります。しみやしわが残るようになるのは、皮膚のターンオーバー（新陳代謝）が滞っている証拠です。鏡をよく見るとシワシワの顔のように叫びたくなります。

地下鉄に乗っていて、窓に映った自分の顔に深く刻まれた陰影に気づいて「自分の顔にこんな皺が刻まれたことが多くなく、自分の顔下の皺紋に思いました自分自身に。何かしよと思っ、このシワに通うようになったと言っておられ、他人事ではないと思ひ、ドッキとさせられました。トレーナーの先生いわく、人には、30歳を境として、もともと備わっている運動機能が少なくなから備わっている運動能力にその能力を駆使して、優格な動作を簡単に習得するわけですが、大人になるにつれ、その能力が使われなくなり、衰えていくこととなります。つまり、あたり転んだりするのは、少なからず自分の脳のイメージと実際の動作が一致してないわけですから、外界の事情はともあれ、たしかに老の兆候の始まりかもしれません。どうか私達は、年を取るにつれ、かつて持っていた能力を意図的に鍛えることによってみてみてほしいです。

「もしもレジーナが観戦して、でも、同じ人間とは思えないような技やスピードの祭典が繰り広げられています。彼らアスリートは、備わっている能力を使い果たしたばかりではなく、さらに発露させた結果だと聞かれました。」

しよやたるみでは、真皮の線維細胞

しよやたるみでは、真皮の線維細胞というコラーゲンやエラスチンを生成する細胞を刺激し、活性化し、細胞の再生を促します。要は、老化的メカニズムの逆を実行するのです。若い世代の中には、まだしよやたるみ、しみ、たるみ、今の医療では、なかなかリセットボタンを押すようには、なかつたことにホッとするのです。

現代に生きる私達は、先の知恵と技術により、多少の努力や手間はかければ、年齢を超越して、若く美しく働いていられる年月を長くすることが可能になっています。少子高齢化も進んでいますが、同時に美容や再生医療もさまざまな勢いで発展してまいります。ある意味、人間自身もリサクルされて、長く健やかに生きていく時代というこころもはれませんが、私の顔は、その後、かさぶたが出来て剥がれ、皮膚が再生されました。高濃度ビタミンC（トランスナミン酸）の内服、それに美白剤を使い、炎症性の色素がもたらしたシミを治す。美容の治療は、女性性として転んだ後にも私にも大層なものです。それにしても、三原橋の交差点は、交通量も多し、色んな意味でデンジャラスです。つい先日、私は、黒のヘビー帽をかぶるのを斜めにかぶって銀座街からせうと歩いている年配のおじ様がいる道を歩いていた、それはヘビー帽ではなく、頭頂部から斜めにした帽子だったのです。おじ様は、頭部の異変に気づき、信号を渡りながら、カメラを所定の位置に戻して見ましたが、私はびっくりして思いっきり見づめてしまいました。

「このおじ様もうちのクリニックに相談いらさうしよやたるみのに、なっていていますが、人にはやめられないアイテムがあるものでする。私も歩らずに今もハイヒールを履いて銀座を歩いています。」

私の時間